深いルーツ：吉野の長い歴史は精神的な献身に基づいている

今日、吉野山は、春のお花見の日本一の名所として有名です。その評判は、吉野の長い歴史と宗教の実践の中心地として、また源義経（1159〜1189）や後醍醐天皇（1288〜1339）などの著名な歴史上の人物との関係に基づいています。

考古学的証拠によると、人々が少なくとも紀元前14,000年から吉野地域に住んでいたことを示唆しています。吉野水分神社は、奈良盆地に最初の日本帝国裁判所が設立された大和時代（300〜710年）に設立された可能性があります。当時の初期の稲作には水が不可欠でした。吉野は作物の重要な水源であったため、神社は当初、水の女神を称えていたかもしれません。

西暦7世紀の終わりに、半伝説的な禁欲主義者の役行者（634–c.700）が山に宗教的な聖域を建てました。吉野の南にある大峰は、民俗信仰、神道、仏教、密教が融合する場所です。信仰は他の信者を引き寄せ、修験道として知られるようになりました。彼は後に吉野に金峯山寺を設立し、修験道の中心になりました。この頃、詩人たちは吉野の自然の美しさを称賛していました。山に関する彼らの詩は、日本最古の詩集である万葉集に記録されていました。詩人の西行（1118〜1190）は、平安時代（794〜1185）に吉野の奥千本地区の庵に3年間住んだときに書き留めました。

この地域は、おそらく日本で最も有名な武士の義経が逃げてたどり着いた場所でもありました。義経が源氏戦を率いて源平合戦（1180〜1185）で平氏と戦った後、彼の兄弟である源頼朝（1147〜1199）の怒りを被り、京都から吉野へ逃げました。彼は吉水院（現在の吉水神社）と奥千本に篭りました。彼は後にここから逃げることを余儀なくされ、恋人である静御前（1165-1211）を残しました。これは、現代文学、漫画、小説、テレビドラマだけでなく、詩、能、歌舞伎などで再演された日本文学の最も多くのエピソードの1つになりました。

14世紀半ば、後醍醐天皇は頼朝によって設立された鎌倉幕府（1185–1333）を転覆しました。皇帝は、軍隊が支配権を再主張するまで3年間しか権力を維持できず、吉野に逃げ、そこで吉水院に行宮を設立しました。天皇の南朝と将軍が支配する北朝の衝突は50年以上続き、南北朝時代（1336–1392）として知られています。後醍醐の後継者は、最終的に足利幕府に敗れました（1336–1573）。

明治天皇（1852-1912）は、1868年の明治維新後、皇室がその優位性を再確認した後、南北町時代の後醍醐とその子孫を正当な天皇だと宣言しました。吉野神社の建設を命じ、後醍醐天皇を祀りました。また、政府は修験道の実施を禁止し、その寺院は破壊または他の用途のために改造されました。たとえば、吉水院は吉水神社に変わりました。

第二次世界大戦後、信教の自由によって修験道の再建は認められ、修行者を再び惹きつけ始めました。 2004年、吉野は紀伊山地の聖地と巡礼ルートの一部としてユネスコの世界遺産に登録されました。